『権代敦彦作品集』 PORTRAIT OF ATSUHIKO GONDAI

権代敦彦氏とは、桐朋学園時代に《リベラ・メ》(1986)の委嘱世界初演をお願いしてから、かれこれ40年の歳月が流れた。時を刻み続ける氏の作法と打楽器作品への想いを私たちの手で奏でていく。昨年開催した《イリャン・チャンの肖像》に続き、日本を代表する卓越した作曲家、氏のポートレートコンサートを、次代へ繋げる「**MUSIC DAY SERIES**」にて神奈川県立音楽堂で開催できることは、この上ない喜びである。

— 加藤 訓子

権代敦彦 ATSUHIKO GONDAI - COMPOSER

1965年生まれ。メシアンの影響で作曲とオルガンを始め、17歳で女声合唱のための"Ave Maria" Op.1を作曲。
長年にわたり、カトリック教会のオルガニストも務めた。「有限の生命・有限の音楽時間」における「死・終焉」と「永遠・無限」との関係を創作の中心主題に据え、カトリック信仰に根差しつつも、様々な宗教を横断する独自の死生観・時空観念による音楽の創作を試みている。オペラ、オラトリオ、管弦楽、協奏曲、室内楽から独奏に至る様々な器楽曲、合唱曲、また古楽器、復元古代楽器を使ったものや、邦楽、雅楽、仏教声明に至るまで、あらゆる分野に及ぶ作品が200曲程ある。特にオルガンのジグモンド・サットマリー、チェロのマリオ・ブルネロ、ヴィオラのユーリ・バシュメットといった、世界的名手のために多くを作曲。2000年、ミレニアムの年に、天台・真言両宗の声明衆のための、新作声明の作曲を切っ掛けに、仏教への関心が高まり以降仏教音楽とキリスト教音楽との邂逅、融合を試みた作品を多く作曲。日本、ヨーロッパ各地のカトリック大聖堂で公演を行った。またノイズ・ミュージックのMERZBOWとの共作や、振付家リン・ファイミン(林懐民)率いる台湾のクラウド・ゲイト・ダンス・シアター(雲門舞集)、ダンサー・振付家の金森穣、森山開次など、ダンス分野とのコラボレーションも多い。1995年および99年に、東京カテドラル・聖マリア大聖堂で自身の作曲個展をプロデュース。その後は、2004年サントリー音楽財団の「トランス・ミュージック〜対話する作曲家」、2010年ロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールにおけるフィルハーモニア管弦楽団「ミュージック・オヴ・トゥディ」、2013年サントリー芸術財団「作曲家の個展2013―権代敦彦」等で作品が特集された。
芥川作曲賞、出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、中島健蔵音楽賞、別宮賞、尾高賞をはじめ、国内外で数多くを受賞。
現在、2023年より、愛知室内オーケストラの初代コンポーザー・イン・レジデンスを務めている。

PERFROMERS
出演者

KUNIKO KATO
REINA IWAMI
MIZUKI AITA
MASAYUKI NINO
KARIN TOZAKI
ITARU AKUHARA
KOICHI HOSONO
AYANO SAITO
RYOHEI FUJIMOTO
MAICO TOMITA
ASAKA TSURUGA
HARUKA AOYAGI
CHIHIRO FURUYA
KANA YOKOUCHI
TETSUAKI MURATA
SATOKA MARUYAMA (sop.)

[主　催]　特定非営利活動法人芸術文化ワークス　　[共　催]　神奈川県立音楽堂（公益財団法人神奈川芸術文化財団）
[お問合せ]　芸術文化ワークス事務局　tel: 080.5075.5038　email: info@npo-artsworks.org

Pearl　ADAMS　LINN　YAMAHA MUSIC JAPAN CO. LTD.